

p182 「一問一答」

1. ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを活発にし、毛様体におけるアセチルコリンの働きを抑える。
2. コンドロイチン硫酸ナトリウムは結膜や角膜の乾燥を防ぐことを目的として眼科用薬に配合されている。
3. ビタミンAは、視細胞が光を感受する反応に関与していることから、視力調整等の反応を改善する効果を期待して眼科用薬に用いられる。
4. 点眼後、目頭を押さえると、薬液が鼻腔内へ流れ込むのが抑えられ、効果的である。
5. 点眼薬に配合されているスルファメトキサゾールは、細菌だけでなく、ウイルスにも有効である。
6. フェニレフリン塩酸塩を配合した点鼻薬を過度に使用すると、鼻づまりがかえってひどくなることもある。
7. テトラヒドロゾリン塩酸塩は、鼻粘膜を通っている血管を拡張させる作用を示すことを期待して用いられる。
8. クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からのヒスタミンの遊離を抑える働きがある。
9. 眼科用薬では、局所性の目の充血やかゆみ、腫れといった副作用が現れることがあるが、全身性の副作用が現れることはない。
10. 脱毛は男性ホルモンの働きが過剰であることも一因とされる。
11. カシウは、頭皮における脂質代謝を高めて、余分な皮脂を取り除く作用を期待して用いられる。
12. カルプロニウム塩化物は、末梢組織（適用局所）において抗コリン作用を示し、頭皮の血管を拡張、毛根への血行を促すことによる発毛効果を期待して用いられる。
13. チクセツニンジンとは、ウコギ科の植物を基原とした生薬で、血行促進、抗炎症等の作用を期待して用いられる。

【解答】

1. × ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを抑えることで毛様体におけるアセチルコリンの働きを助ける。
2. ○
3. ○
4. ○
5. × スルファメトキサゾールはウイルスには無効。また、すべての細菌に有効というわけではない。
6. ○
7. × テトラヒドロゾリン塩酸塩は、アドレナリン作動成分。血管を収縮させる作用を示す。
8. ○
9. × 全身性の副作用として、発疹、発赤、かゆみ等がみられることがある。
10. ○
11. ○
12. × 抗コリン作用ではなく、アセチルコリンに類似した作用（コリン作用）を示す。
13. ○